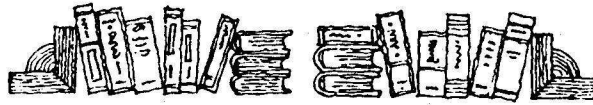


国語国文学会だより



No. 39

2008. 9

日本文学科卒業生の会

国語国文学会 春の総会・研究発表会報告

平成二十年度春の総会・研究発表会を五月二十九日（木）八十年館八五一教室にて開催しました。

◆第一部 総会

(1) 国語国文学会会長挨拶

谷中信一先生

(2) 奨学金授与

上村悦子奨学金

院博士課程前期二年次 松永恵理子氏

院博士課程後期二年次 岩田芳子氏

日本女子大学日本文学科賞（奨励賞）

学部四年次 宮田知世氏

院博士課程後期二年次 佐藤麻衣子氏

(3) 国語国文学会委員長挨拶・役員紹介

（学生の会・卒業生の会）

(4) 平成十九年度活動・決算報告

(5) 平成二十年度活動計画案・予算案・監査選出

(4)(5)については、学生、卒業生より各々報告説明を行い、各案件とも審議後承認

(6) 自主ゼミ発足（学生の会・卒業生の会）、承認

◆第二部 活動報告と研究発表

交換留学生紹介及び挨拶

学部四年 プラッド ジュリア、カッシイアー

マヤビ（ウェルズリー・カレッジ）

ヘロン リンゼイ、バージェス オレンカ（オレゴン大学）

秋季大会・公開講演会のご案内

▼日時 平成二十年十一月二十九日（土）

十三時半より

▼場所 未定

▼公開対談

脚本家、作家 大石静氏

（聞き手）本学教授 高野晴代氏

題目未定

★大石静氏略歴

大石静（おおし しずか）

一九五一年生まれ。日本女子大学文学部国

文学科卒業。脚本家・作家。一九九七年、

NHK連続テレビ小説『ふたりっ子』で、

第十五回向田邦子賞と第五回橋田賞脚本賞

をダブル受賞。二〇〇六年には、NHK大

河ドラマ『功名が辻』の脚本も手掛けた。

二〇〇八年、『四つの嘘』（原作・脚本）が

テレビドラマ化。

脚本作品・エッセイ集多数。

▼講演

「『おとこ』と『平とこ』―藤原定家の仮名遣い―」

本学教授 坂本清恵氏

▼懇親会

講演会終了後、七十年館にて（予定）

会費三千円程度（学生半額予定）

*研究発表会

二十九日 十時～十二時

発表者募集

詳細は四面参照

▼報告

活動報告

・「近代自主ゼミ活動報告」

藤田沙矢香氏

・「古筆の会活動報告」

森田直美氏

▼研究発表

・「リユブリヤナ大学における日本語史に関する授業の報告」 佐藤麻衣子氏（本学大学院博士課程後期二年）

・「『紫式部集』表現と構成―伝本の比較から―」 曾和由記子氏（本学大学院博士課程前期一年）

・「『三人吉三郎初買』の考察―因果応報と悪―」 福田百合子氏（新制五十八回生 平成十九年度日本文学科学賞受賞受賞）

・「『三人吉三郎初買』の考察―因果応報と悪―」 福田百合子氏（新制五十八回生 平成十九年度日本文学科学賞受賞受賞）

平成十九年度卒業生の会活動報告

(1) 総務

・ 回生委員会・常任委員会の招集

・ 春季大会・研究発表会の開催 五月三十一日（木）

(2) 企画

・ 自主ゼミの活動

・ 平安文学談話会・皇女研究会・古代中世文化論
・ 秋季大会の開催
十一月二十四日（土）

研究発表会・総会・講演会・懇親会

(3) 会計

・ 会費納入の確認

・ 収支・運営・備品の完備など

(4) 編集

・ 「国語国文学会だより」の発行

三十六号（秋の大会報告号 五月）
三十七号（春の大会報告号 八月）

・ はがき通信 五月（春の総会案内）

・ はがき通信 十一月（秋季大会案内）

平成二十年度卒業生の会活動計画

(1) 総務

・ 春季総会・研究発表会の開催 五月二十九日（木）

(2) 企画

・ 自主ゼミの設立

平安文学談話会（古筆を読む）

皇女研究会（国史を読む）

古代中世文化論

・ 秋季大会の開催

研究発表会・総会・講演会・懇親会

・ 文学散歩の実施予定

(3) 会計

・ 会費納入への協力依頼

・ 活動充実のための備品の整備・購入

(4) 編集

日本女子大学国語国文学会・卒業生の会			
平成19年度決算案（平成20.5.29）			
【収入の部】			（円）
項 目	予 算	決 算	増 減
前年度繰越金	268,888	268,888	
会 費	550,000	551,494	△1,494
利 子	0	456	
寄 付	0	0	
計	818,888	820,838	△1,950
【支出の部】			
通信費	260,000	246,480	△13,520
文具費	3,000	0	
コピー代	8,000	3,780	△4,220
会報印刷費	80,000	75,600	△4,400
名簿作成費	150,000	0	
委員会活動費	61,000	37,229	△23,771
・ 委員会費	(10,000)	7,342	
・ 交通費	(36,000)	28,000	
・ 行事費	(15,000)	1,887	
ゼミ費	30,000	30,000	0
秋季大会費	100,000	69,045	△30,955
慶弔費	5,000	0	
パソコン関係諸費	50,000	37,440	△12,560
予備費	71,888	0	
計	818,888	499,574	
		20年度へ	319,314
上記の通り決算報告致します。			
会計 津田 英子		斉藤 令子	
監査の結果、上記決算報告が正確であることを認めます。			
監査 菅家由紀子		金石 教子	

※原本同一で押印済み

・「国語国文学会だより」の発行
秋の大会報告号 三十八号（五月）
春の大会報告／秋の大会案内号（九月）
・はがき通信 十一月

平成二十年度常任委員

総務 立川和子（新1） 関根緑（44）

岩切匡子（新4） 金石教子（新12）

藤木直実（院31）

企画 永井幸子（新1） 丸茂敬子（新16）

平山静（新34）

会計 津田英子（新6） 斉藤雅代（新19）

編集 中田和子（院27） 福原房枝（新28）

斉藤祝知（院35） 黒川晴美（新33）

遠間倫世（新54） 鈴木ちよ（新56）

本年度の会計監査は児玉久美子さん（旧46）、
斉藤令子さん（新6）です。

平成二十年度研究サークル

*平安文学談話会（古筆を読む）

金曜日 午後四時半（年十回）

日本文学科研究室

・高野晴代 Ⅷ〇三（三三七〇）六八〇六

*皇女研究会（皇女総覧平安朝篇の作成）

不定期 土曜日 午前十時半

大学図書館共同研究室

・柳澤理恵子 Ⅷ〇四五（八四二）六五二五

*古代中世文化論ないし芸術論

日本女子大学国語国文学会
・卒業生の会
平成20年度予算案
(平成20.5.29)

【収入の部】

項 目	予 算
前年度繰越金	319,314
会 費	550,000
計	869,314

【支出の部】

項 目	予 算
通信費	300,000
文具費	3,000
コピー代	8,000
会報印刷費	80,000
名簿作成費	150,000
委員会活動費	61,000
・委員会費	(10,000)
・交通費	(36,000)
・行事費	(15,000)
ゼミ費	30,000
秋季大会費用	100,000
・講演料	(60,000)
・諸経費	(40,000)
慶弔費	5,000
パソコン関係諸費	50,000
予備費	82,314
計	869,314

毎月第四木曜日 午後一時半～三時半

桜楓会館新館

・児玉久美子 Ⅷ〇四四（八一四）〇七五二

○『国文目白』第四十七号ができました。ご希望の方
は葉書で左記までお申し込みください。

〒一〇二一八六八一 文京区目白台二一八一

日本女子大学日本文学科研究室「国文目白」係

代金は、冊子到着後に払い込んでください。

（送料別 千円）

国文目白第四十七号

堀辰雄（外国文学に関するノート）―シャルル・デ

ユ・ボス、フランソワ・モーリアック、ジュリアン・

グリーン―

渡部麻実

『古事記』におけるクシナダヒメの造型 浅見沙織

継子物語の時代的要請―平安時代養育慣習からのア

プローチ―

芝崎有里子

白き月光―その色相概念の形成過程に関わる貫之・

躬恒―

森田直美

建礼門院右京大夫―出家しない女―

吉田玲美

「足」と「火事」との意味するもの―三島由紀夫『禁
色』のあるアスペクト― 松永恵理子

北杜夫『岩尾根にて』論―「正気」と「狂気」を
めぐる精神科医のまなざし― 齋藤愛美

インドにおける日本文学をめぐる現況

スウィーティ・グプタ

木藤才蔵先生御寄贈書籍紹介

白石美鈴

婉曲「ようだ」と聞き手の領域

山本沙枝

〔書評・紹介〕〔集報〕

研究室だより

○今年度、平舘英子先生（上代文学）が、国内研修
に出られました。

○昨年度、国内研修に出ていらつした石井倫子

先生（中世文学）が、御帰任になりました。

○他の先生方は昨年と変わりありません。

高野晴代先生（中古文学）

石井倫子先生（中世文学）

児玉竜一先生（近世文学）

源五郎先生（近代文学）

倉田宏子先生（近代文学）

坂本清恵先生（日本語学）

清水康行先生（日本語学）

谷中信一先生（中国思想史）

田中功先生（図書館学）

江田すみれ先生（日本語教育学）

田辺和子先生（留学生教育）

○助教の渡部麻実さんが退職し、天理大学に着任されました。

○研究室には、助手の白石美鈴さんと助教の八木京子さんが常勤で詰めていらつしやいます。

○非常勤助手は、昨年度後期よりの田代一葉さんに加え、今年度より新たに鈴木美穂さんに御願ひしています。

○本年三月八日（土）、日本女子大学文学部・文学研究科の「新しい女」研究会主催による公開シンポジウム・研究発表会「平塚らいてう生誕一二〇周年を記念して―『青箱』と世界の『新しい女』たち」が、百年館低層棟五〇五・五〇六教室を会場に行われ、活発な質疑があり盛会裡に閉会しました。

○六月二十八日（土）、日本女子大学・文学部共催による学術交流企画「『源氏物語』の雅び」が、桜楓二号館四階ホールを満員にして開催されました。源氏一千年紀にちなむ企画です。はじめに、後藤

祥子本学学長・名誉教授による講演「一条朝と前代の往還」があり、続いて石田百合子元白百合女子大学講師による解説付きで雅楽「六条院の女楽」が、七絃琴・笙・和琴・箏・横笛により奏でられました。事前に用意した座席はすべて埋まり、学生には立ち見席で辛抱してもらったほどの盛況でした。

○毎夏の恒例となった「国語科教員の会」が、八月二日（土）に開かれ、午前の部では、本学科出身で中学・高校の国語科教師の諸先生による近況報告と本学への御要望を伺う懇談会、午後の部では、教職志望の在学生も多数参加し、金子真奈美先生（院三十一回生、東海大学付属高輪台高校教諭）による教育活動報告「現代教育の現場から―実践報告を兼ねて―」と、それを受けての活発な質疑応答が行われました。

国語国文学会の本年度の担当は、坂本先生、清水先生、鈴木さんです。

▼文学散歩

今年は太宰治没後六十年を迎えたことでもあり、ゆかりの深い三鷹周辺をめぐることにしました。奮つてのご参加をお待ちします。

コース 三鷹駅南口から↓三鷹市美術ギャラリー↓太宰治文学サロン↓玉川上水沿い風の散歩道（入水場所・玉鹿石）↓山本有三記念館↓平和通り（井心亭・太宰の旧居跡）↓連雀通り（瀬戸内寂聴が住んだことのある下田商店）↓禅林寺（森嶋外・太宰のお墓等）↓三鷹駅へ戻り、「釜膳」

にてお食事・解散

・日時 十月十八日（土）午前十時～十五時頃

・集合場所 JR中央線三鷹駅南口改札前

・費用 昼食代ほか約三千円

・申込み・問い合わせ先 永井幸子（新1）

・電話・FAX 〇三（五九七〇）二〇四一

・締切り 十月十五日（水）連絡は十八時以降に

◆研究発表会 発表者募集

・日時 平成二十年十一月二十九日（土）

・発表時間 三十分、質疑応答十分（予定）

・応募資格 本学国語国文学会の会員であること

・応募方法 論題に四百字以内の発表要旨を添えて文書で申し込むこと

・応募先 日本文学科研究室内「国語国文学会

秋季大会研究発表者募集係」宛

・締切り 平成二十年九月二十五日（木）

・選考方法 国語国文学会において選考を行い、選考結果は後日、個別に通知いたします。

○会計より

振替用紙を同封いたしました。本年度会費千円の納入を十一月末日までお願いいたします。

二〇〇八年九月一日

発行 日本女子大学日本文学科

国語国文学会卒業生の会

〒一一二八六八一 東京都文京区目白台二八八一

日本女子大学 日本文学科内